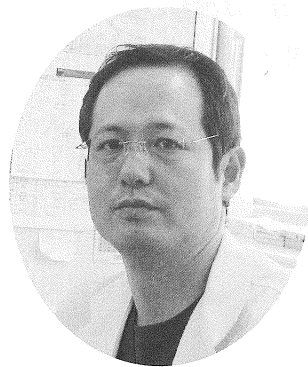


## 米国で学んだ家庭医療を千葉で広めていきたい



北垣 毅氏

医療法人社団 愛信会 (千葉県)  
花見川中央クリニック 院長  
(米国家庭医療学専門医、米国認定救急救命士)

○:「アメリカで救急救命士資格と家庭医療学の専門医を取得し、2004年に帰国して4年目。病院、診療所勤務を経て、昨年6月千葉・愛信会グループの花見川中央クリニックで診療活動をはじめ、10カ月たちました。どのような患者さんが来ても困らない医師を目指して、学んできた米国の家庭医療学を日本的なかたちに置き換えながらやっていますが、最近ようやく自分の目指してきた医療に近づいてきたなと感じています」

千葉市花見川区は関東最大級5500戸の住宅団地をもつ東京のベッドタウン。京成電鉄八千代台駅から車で5分の住宅街の中にある。標榜は内科、小児科、整形外科、アレルギー科。診療時間は9時〜17時、金曜、日曜休診。北垣院長のほか看護師2人、事務2人の体制。外来は1日60〜70人。診療単価は7000円前後。患者の内訳は生活習慣病を主に、小児科が増え、整形外科、皮膚科も徐々に増えている。リハビリや在宅医療までには手が回らないが、家庭医療に共鳴してくれる若い医師を得て順次広げていきたいと願う。「地域の人たちから、ここでもなんでも診ても

らえるので有難いという評判がはじめています」。日本の保険診療ルールや家庭医療への理解度の低さから多少のあつれきはあるが、「これからは開業医の先生と一緒に勉強をしましょうと呼びかけていきたい」と家庭医療学の普及に情熱を燃やす。

○:北垣院長は1967年東京・練馬区生まれ、40歳。95年高知医大卒。学生時代はひたすら空手道に打ち込む。卒後は日本医大高次救命センター入局、救急医療研修。アメリカの臨床教育のすばらしさを経験者から伝え聞き、なんとしても挑戦してみたいと医局を辞し、2年間は資金づくりのため民間病院の外

来から当直、企業検診まで休日返上で、英語を学びながら3年間の留学資金をためた。その間米国医師国家試験(USMLE)のStep 2(臨床部門)に合格した。そして99年8月にいよいよ渡米。カネもコネも英語もままならぬ身のチャレンジだった。まずフロリダ州の救急救命士養成学校(6カ月コース)に入り、資格を得て2年間米国内の救急活動に携わる。これは「米国の医療を医師以外のサイドから学びたい」という思いと、あくまでも臨床に近いところに身を置いておきたいという考えからだった。このあと01年に最終目標だった家庭医療学を学ぶためインディアナ州ユニオン病院家庭医療学センターの研修医となり、3年間のコースでプライマリケア全般を学んだ。この研修プログラムはへき地型でER(救急)や産科(分娩)、整形外科に力が入られた。産科は6カ月で50件が

ノルマだった。在米中は150件の分娩にかかわったという。04年に5年間の留学生活から帰国、亀田総合病院総合診療部長、05年より上尾中央医科グループの東川口病院総合診療科部長を。「日本で本当の家庭医療学を実践していくことは制度や文化の違いがあり制約されるが、花見川に移ってようやくやるべきことができるようになった」と語る。「私のとった米国留学のコースは遠回りのように思えるだろうが、非常に効率的なものだったと今考えています。日本の卒後研修シテムはまだまだ甘いですよ」

○:最近では東京女子医大八千代医療センターから研修医教育に招かれたり、亀田総合、君津中央、県立東金病院からも同様の要請があるという。昨年は母校高知大学に家庭医療学講座が開講され、その記念行事で講演した。地元千葉市と八千代市の医師会にも入会、月の半分は夜間小児救急センターに詰めているという。「本当は診療科名を『なんでも科』としたいところですが、法的にはそうもいえない。患者さんには痛みや困ったことがあったらとにかくここへきて下さい。ここでできないことは専門医に紹介しますといっています。米国の家庭医療とはそういうものです」。医療法人社団愛信会花見川中央クリニックは〒262-0046 千葉市花見川区花見川3-29-101 ☎043-259-3588。